

## 行事報告

## 広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業—CIS 活動報告(ベトナム)

広域アジアものづくり技術・人材高度化研究センター運営委員会 委員 菅哲男  
接合科学研究所 客員教授

2018 年度のベトナム CIS(カップリングインターンシップ)が、10月28日-11月10日の期間にベトナム(ハノイ、ハイフォン)で開催されました。大阪大学の外国語学部1名、経済学研究科1名、工学研究科2名、ハノイ工科大学(HUST)の経済・管理学部2名と機械工学部2名の計8名の学生が参加しました。接合科学研究所の橋本特任講師が全工程を引率しました。

現地での2日間の事前研修(HUST、ハノイ)で、ものづくり日本企業の紹介やコミュニケーションの研修、溶接基礎知識の教育、CIS 実習テーマの事前検討などを行いました。10月31日からの休日を除く5日間は、ハイフォンにあるIIA [IHI INFRASTRUCTURE ASIA] (橋梁会社、IHIの子会社)で企業実習を実施しました。実習としては、会社説明(組織、業務内容)、生産工程の説明、安全の講習、実習(ガス切断とマグ溶接)などを受けると共に、橋梁の外注会社(ナムロン社)の工場見学を行いました。また、11月6日には IHI グループが建設したニャッタン橋(ハ

ノイ)を見学し、橋梁会社の最終製品を勉強しました。実習テーマ「日本人とベトナム人のコミュニケーションの課題と対策」に関して、企業の幹部・スタッフとのインタビューなども踏まえて、学生は連日真剣に取り組みました。なお、11月4日の文化体験では、世界遺産のハロン湾へ行き、見聞を広めました。

最終日の11月9日にはHUSTで、学生は実習テーマの検討結果について発表しました。最終報告会(写真)には、IIAの佐々木社長、山本工場長、HUSTのDuong准教授(接合科学・副部門長)、阪大の近藤教授・菅客員教授・橋本特任講師(接合科学研究所)、馬越教授(基礎工学研究科)ら計22名の参加があり、活発な質疑応答が行われました。佐々木社長からは「コミュニケーション促進や英語教育の面で大変参考になる提案が出ている」とのコメントがありました。

学生は、「ものづくり現場」を体験すると共に、「異文化コミュニケーション」の理解が来ており、大変有意義な活動でした。

